三光電業

新春プライベートフェア

2119日

昨年の「新春プライベートフェア」

三光電業は「2021新春プライベートフェア」を19―21日に、広島市西区商工センター内の同社本社で開催する。例年は福岡と広島の2会場で開催しているが、今年は広島会場のみとなる。

広島会場でのフェアは今年で13回目。新型コロナウイルスの収束が見えない中、「出展社数は14社。おかげさまで毎年1社も欠ずに出展していただいている」と森脇喜美代社長は胸をなでおろす。話題の協働ロボットメーカーなどが新商品や新技術を披露する。

新社屋を利用しての展示会は2度目。同展の名物になっているお汁粉、お好み焼き、豚汁は残念ながら今回は中止する。

期間中、同社和太鼓倶楽部が特別イベントとして和太鼓の演奏を行う。景気回復を呼び込むとともに、新型コロナウイルスを吹き飛ばすほどの迫力ある演奏が期待される。また、プライベートフェア会場正面の三光電子製作所広島工場の見学も実施する。

コロナ感染防止のために従業員の検温および体調の確認をはじめ、マスク着用と手洗いの徹底、消毒液の設置、会場受け付けの飛沫（ひまつ）防止シート設置、来場者間の距離を確保するための目印の設置、会場内の定期的な換気、混雑した場所の入場制限などの対策を講じる。

出展社は次の通り。

IDEC、日東工業、三菱電機、光洋電子工業、山洋電気、冨士端子工業、コーセル、ヘラマンタイトン、富士電機機器制御、SMC、東洋技研、興和化成、北川工業、パナソニック。

同社ものづくり統括部、UNIVERSAL ROBOTSのコーナーもある。

三光電業の森脇喜美代社長に、新年に際して今年と将来についての中長期のビジョンを聞いた。

◇　◇

――中長期戦略の取り組みはどうですか。

森脇社長　競争で悔しいから負けまいとは思わない。本当の実力をつけたいと思っている。三光電業の立場として考えれば、未来を含めて安定した会社であってほしいと思えば必要な実力がある。

今の実力で安心してしまっては、栄枯盛衰でどこかで壁にぶつかり滅びていく。滅びないため常に上昇していかなければならない。

森脇　社長

海外の取引先と直接商談へ

常に先のことを考えながら行動

――森脇社長の発想が時代の先取りをしていたことはロボット事業でも証明されています。

社員3人が合格

森脇社長　昨秋、Ier協会の第1回ロボットSI検定試験があった。会員企業にしか受験資格が得られないもので、それも1社3人まで。合格率40％の狭き門だった。

当社は他社よりも早くロボット事業に取り組んだこともあり、おかげさまで3人とも合格できた。その中の一人は、ペーパー試験が98点、実技が100点。トップ合格だろう。勉強する時間もあったので合格できてよかったと思っている。

今春実施される第2回も3人が受験する予定。今はベースを固め練習する。基本は本社勤務の社員だが、転勤した各地の社員も練習に参加できるよう便宜を図っている。

――昨年の春に、ユニバーサル ロボットの代理店契約を結ばれました。

森脇社長　今年の春には英語で対応できる社員を育てていく。アメリカ人の採用を検討している。現在はメーカーの方が通訳してくれているが、自社の社員が海外の取引先と直接商談できるような仕組みにしたい。

――和太鼓部に続いてマラソン部が誕生しました。

森脇社長　年に4回あるリレーマラソンに参加している。1チーム10人で参加しており、結成してから、もう3年になる。参加料の一部を会社で補助していて、月に2回ほど、合同で宮園公園（広島県廿日市市）で練習する。基本は本社勤務の社員だが、転勤した各地の社員も練習に参加できるよう便宜を図っている。

森脇喜美代社長に中長期事業戦略を聞く

「ひろしまAI・IoT進化型ロボット展示会」

オンラインでの商談を活性化

「ひろしまAI・IoT進化型ロボット展示会」（主催―ひろしま産業振興機構ほか）が20年12月10、11日、広島市南区の県立広島産業会館西館で開かれた。4回目を数える。

今回は12月1日から21年1月29日までの2カ月間にわたり、Web見本市「AI・IoT進化型ロボット オンラインEXPO」を同時開催し、オンライン商談の活性化を図っている。広島県を中心に中国・四国地域の製造業、生産性向上を期するサービス業の技術商談の場として活用していく。

「ロボット関連システム・要素技術」はイで、過去最大の小間数74小間となった。厚生労働省ならびに世界保健機関（WHO）が推奨する様々な予防措置と、日本展示会協会が取りまとめた「展示会業界におけるCOVID―19感染拡大予防ガイドライン」に基づく安全対策を講じた上で開催された。

主な安全対策として手指消毒液の設置、会場入り口でのサーモカメラでの検温、会場内通路の十分な幅員の確保に従業員の検温および体調の確認をはじめ、マスク着用と手洗いの徹底、消毒液の設置、会場受け付けの飛沫（ひまつ）防止シート設置、来場者間の距離を確保するための目印の設置、会場内の定期的な換気、混雑した場所の入場制限などの対策を講じる。

出展企業は4カテゴリに分かれてブースを設けた。出展社・団体は次の通り。

「ロボット／システムインテグレーター」はインタフェース、HCI、FA・ロボットシステムインテグレータ協会（Sier協会）、川崎重工業、三光電業、大喜産業、パナソニックFSエンジニアリング、ヒロテック、PLEN Robotics、ロボリューション。

「ロボット関連システム・要素技術」はイグス、伊東電機、エコスタイル、コスメック、山陽イシダ、新川健機関、タツタ、ニッタ電機、ニッタテクノ、ミテック、山善（共同出展企業＝アセントロボティクス、アマノ、エクスツールドホーン、サンエイエンジニアリング、三和ロボティクス、CKD、ジェーピーエムエンジニアリング、ダイアディックシステム、THK、テクノソリューションズ、東邦工業、日本セック、ペットの演した。小型、軽量、簡単プログラムで多用途に応用可能な協働ロボット（コボット）の活用事例をイメージしたアプリケーションを展示し、実際の自動化、省人化に役立つ展示内容とした。

また、Universal Robotsの実機による操作を実施。可搬重量3㌔㌘のUR3e、同5㌔㌘のUR5e、同10㌔㌘のUR10eのデモが好評だった。

三光電業の協働ロボットのデモ

協働ロボットの活用事例など展示

三光電業

三光電業は、協働ロボットによる作業を実